

ひと・まち・カラフル

おおたの窓から

地域であざやかに活躍する「ひと」。

十人十色のひとが調和する「まち」。

おおたの窓を開けると、飛び込んでくるのは、いきいき、カラフルな地域の風景です。

view 6 スカイマーク 株式会社



客室乗務員 **むたその はやと** 牟田園 隼人 さん

客室乗務員になった経緯を教えてください。

小さい頃から父の転勤で飛行機に乗る機会が多く、空港で働きたいという思いがありました。グランドスタッフ(地上でのカウンター業務を行う人)を目指して専門学校に入り、卒業後は、いったん別業種に就職したものの、やはり飛行機や接客に関わりたいたいという思いがあり、入社しました。グランドスタッフをしながら、客室乗務員の資格を取る訓練を受け、2年目から徐々に客室乗務員として働くようになりました。

勤務体制を教えてください。

多い時で1日4便のフライトで勤務します。最長3泊4日で全国各地を回ることもあります。1回のフライトでは、基本的に4人の

客室乗務員が勤務します。シフトによって、4人中3人が男性という状況が1回

だけありましたが、逆の場合がほとんどです。

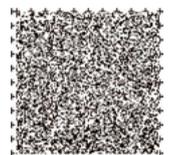
男性の客室乗務員はまだめずらしく、何をすることも目立つてしまう気がするのですが、気を引き締めて勤務にあたっていきます。接客や保安業務など、やることは性別に関わらず全員同じ。みんなの良いアイデアを出し合い、コミュニケーションを取りながら、お客様満足度を高められるよう、切磋琢磨しています。観察力やコミュニケーションが大切な仕事だとつくづく思います。

以前は、客室乗務員というと、若い人が多いイメージがあったと思いますが、長く勤務しているベテランもいます。客室乗務員から地上職、事務職に異動する方もいます。それぞれの家



庭などの事情によつて休みを増やすことのできる制度があります。また、育児休暇制度

を取得する男性も多く、私も2人目の子どもが生まれた時、取得しました。周りもぜひ休んでという雰囲気でありがたく休みをいただきました。どんどん働きやすく、続けやすくなっているのだと思います。みなさんも飛行機や接客に興味があれば、ぜひ客室乗務員に応募してみてください。



私も元・客室乗務員です！



総務人事部 部長
みやした さとし
宮下 哲さん

就航当初から性別による区別を設けず、客室乗務員を採用してきました。昔は少なかった男性の志望者は、だんだんと増えてきています。また、個人の環境に合わせて誰もが働きやすい職場づくりに努めています。

